

第9次文京区緑地実態調査結果の概要について

文京区みどりの保護条例に基づき、令和5年5月～令和6年3月に実施した第9次文京区緑地実態調査の結果について報告する。

1 調査結果

別紙「第9次文京区緑地実態調査報告書 概要版」のとおり

(参考) 主な調査項目の変化

	今 回 調 査 (令和5年度)	前 回 調 査 (平成30年度)	備 考
緑被率	19.1%	18.4%	0.7ポイント増
うち樹木被覆地率	17.9%	17.0%	0.9ポイント増
緑被地面積	215.9ha	207.4ha	8.5ha 増加
屋上緑化箇所数 及び総面積	1,722 箇所 総面積 5.4ha	1,682 箇所 総面積 5.3ha	40 箇所増 0.1ha 増加
樹木数	7,245 本	7,253 本	8 本減
樹林地面積	87.0ha	84.0ha	3.0ha 増加
緑視率	14.3%	14.2%	0.1ポイント増

文京区のみどり

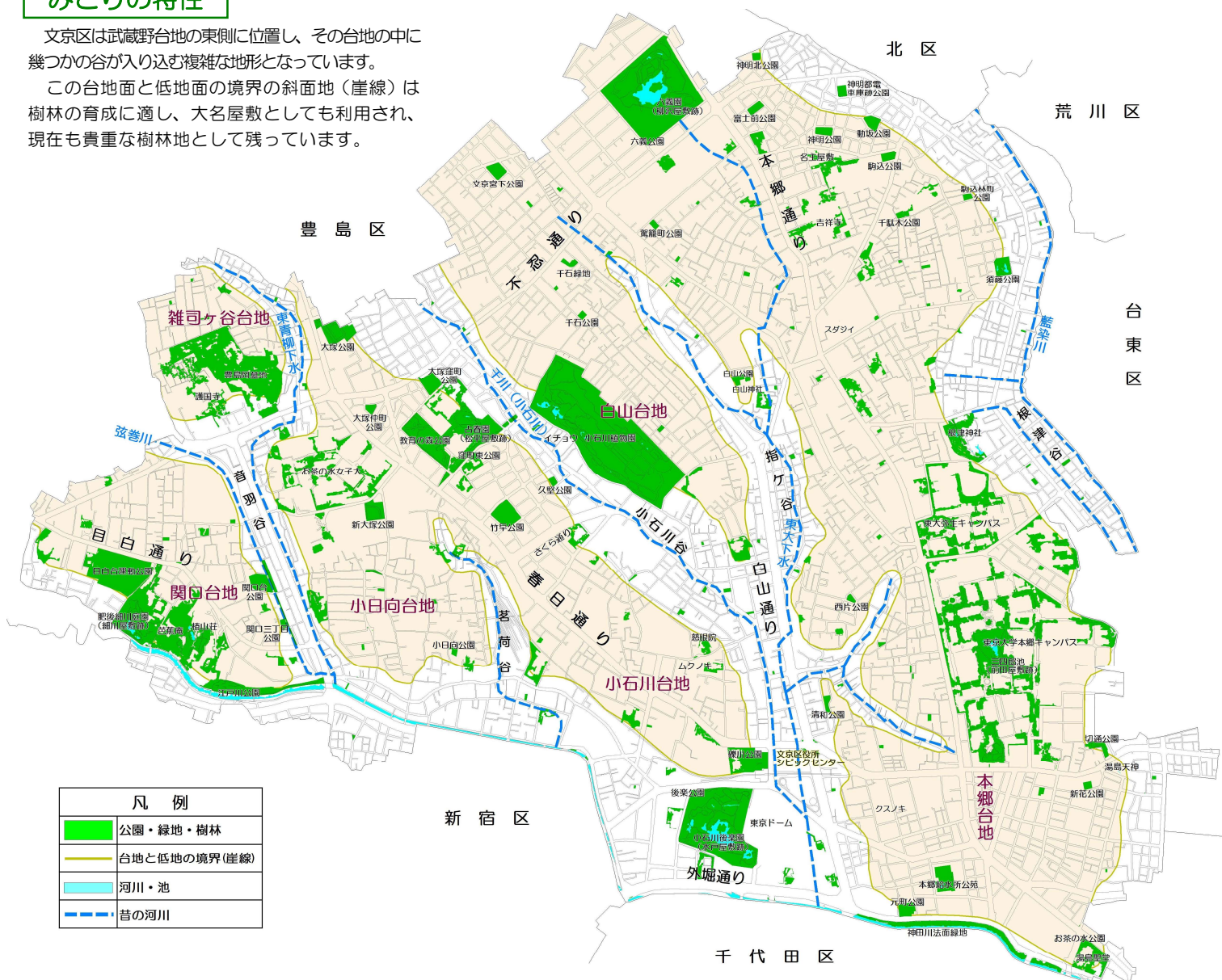
《第9次文京区緑地実態調査報告書》 概要版

令和6年3月

みどりの特性

文京区は武蔵野台地の東側に位置し、その台地の中に幾つかの谷が入り込む複雑な地形となっています。

この台地面と低地面の境界の斜面地（崖線）は樹林の育成に適し、大名屋敷としても利用され、現在も貴重な樹林地として残っています。



文京区では、緑地実態調査を昭和49年から行い、樹木や樹林の現状を把握し、維持・保全・推進に努力をしています。区内には、歴史的にも由緒ある小石川植物園や小石川後楽園、また、数多くの大学など、都会の中のオアシスとなる大規模なみどりがあります。

みどりは、私たちの生活や環境の中で、欠かすことのできない大切なものです。

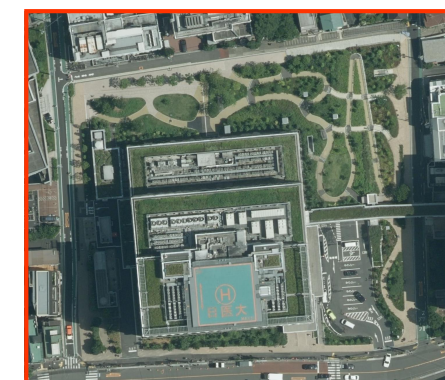
私たちの豊かな住み良い環境づくりのために、みんなで力を合わせてみどりを守り育てていきましょう。

空から見た文京区

●東西南北、中央に大きな緑地があることがわかります●



施設緑化：日本医科大学付属病院



空から見た緑化風景



デジタル撮影により、より鮮明に地上の緑を確認することができます。（地上解像度 10 cm）

0m 500m 1km

緑被等分布図

●マップのみどりと航空写真のみどりを比べてみよう●

凡 例

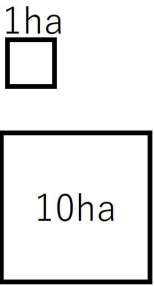
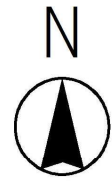
樹木被覆地

草地

屋上緑化

裸地

水面



一般区域	緑被率 (%)	一般区域	緑被率 (%)	一般区域	緑被率 (%)	特別区域	緑被率 (%)
後楽	15.0	小日向	17.0	湯島	13.2	東大本郷	36.2
春日	19.6	大塚南	26.1	西片	15.1	六義園	88.4
小石川南	11.5	大塚北	17.0	向丘	15.9	後楽園	82.7
小石川北	14.9	関口	25.6	弥生	29.3	植物園	92.1
白山南	12.0	目白台	26.5	根津	13.4	豊島岡墓地	87.5
白山北	14.3	音羽	11.3	千駄木	11.9		
千石	10.5	本郷南	11.2	本駒込東	13.0		
水道	9.4	本郷北	10.0	本駒込西	15.5		



みどりの概況

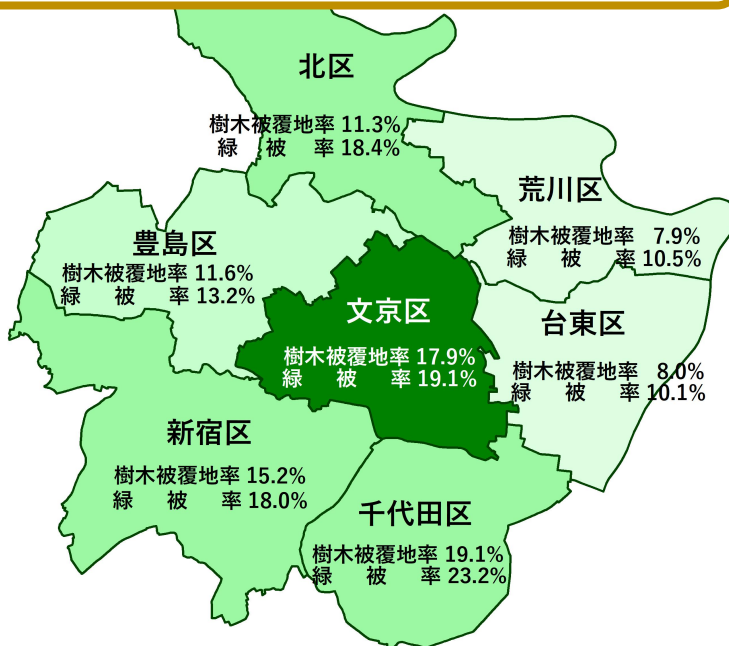
大きなみどりのある文京区

文京区のみどりは周辺の区と比べ、比較的高い水準となっています。

緑被率（樹木や草で覆われている面積割合）は19.1%で23区の中では9番目になります。

緑被の中でも特に、樹木に覆われた区域の面積割合（樹木被覆地率）は17.9%で23区の中では5番目になります。樹木数は1haあたり、およそ6本です。

この結果は、小石川後楽園、六義園、小石川植物園、東大本郷キャンパスを始めとした、緑豊かな公園、学校、社寺、墓地などが数多くあること、環境良好な住宅地が多いことなどによると考えられます。



●文京区と周辺区のみどり

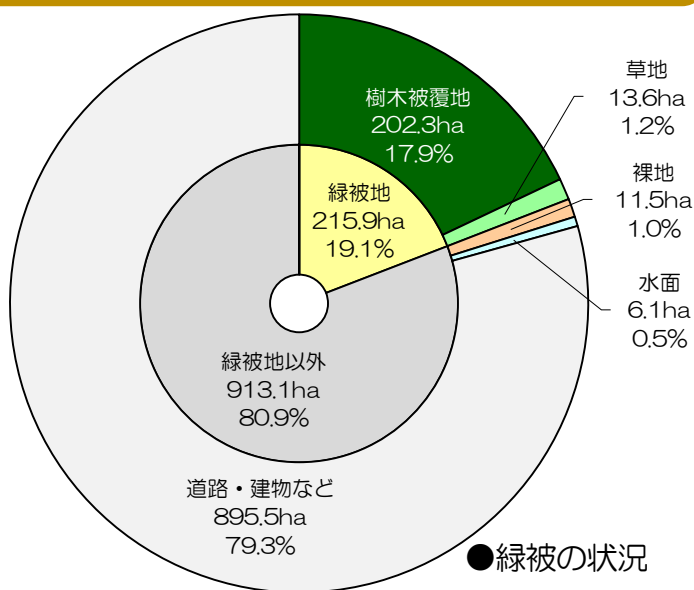
街のみどり

緑被率は19.1%

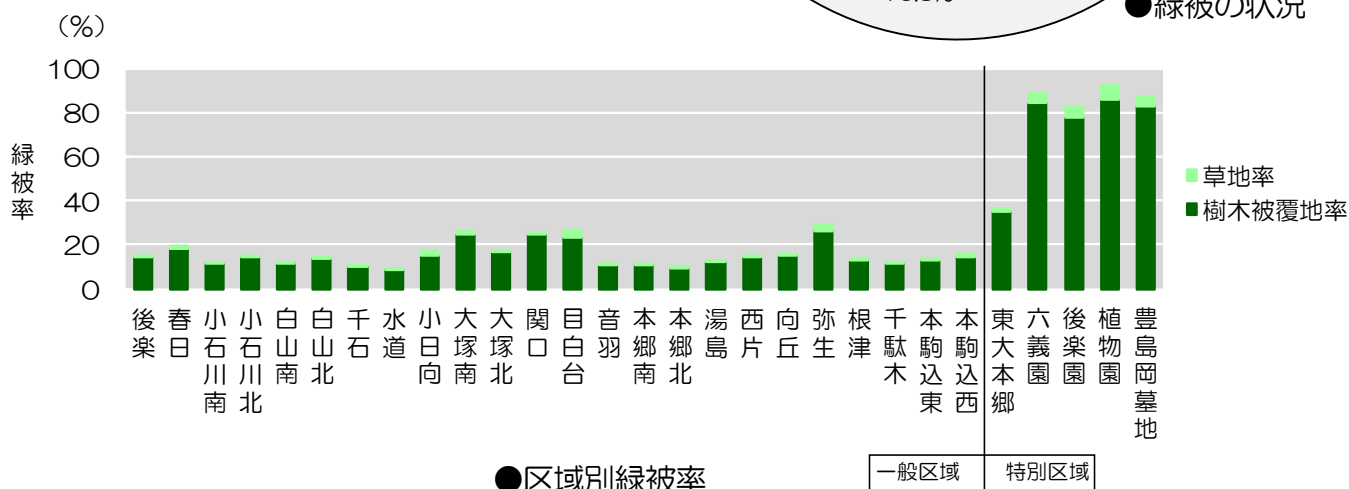
文京区の緑被率は、5年前より0.7ポイント増えました。

これは、樹林地や宅地内、道路にある樹木の成長、大規模な施設の建設に伴う緑化整備などが主な要因になっています。

一般区域では、弥生（29.3%）が最も高く、目白台、大塚南、関口など学校や公園などの大規模な緑地がある区域で高くなっています。



●緑被の状況



●区域別緑被率

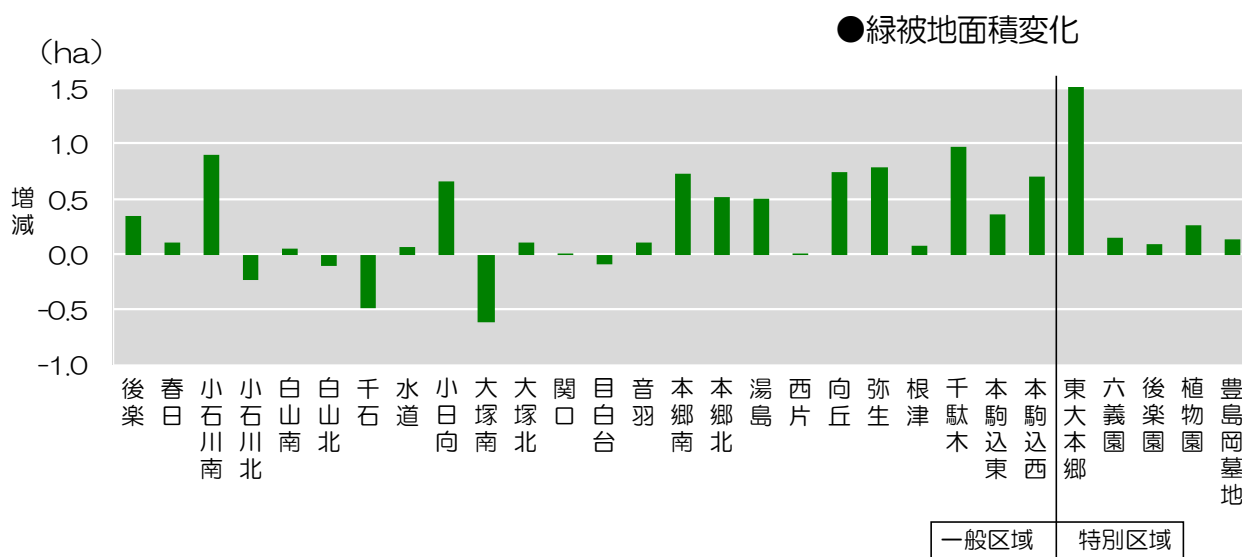
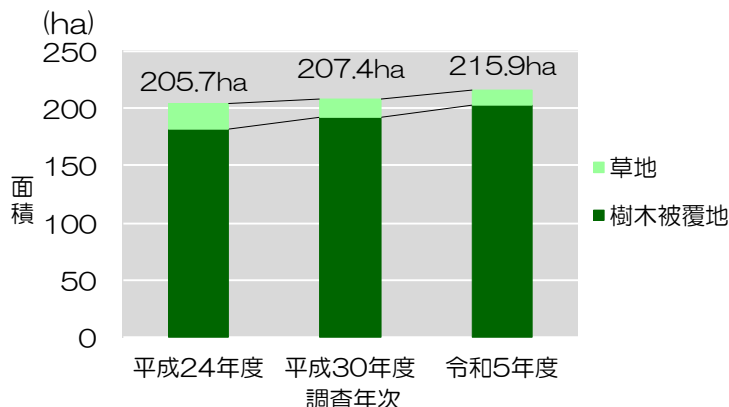
一般区域 特別区域

みどりの量の変化

緑被地面積 8.5ha 増加

緑被地面積の変化を見ると、5年前より、樹木被覆地は 10.6ha の増加、草地は 2.1ha の減少、全体で 8.5ha 増えました。

区域別では、全体的に緑被地面積の増減は 1ha 以内で、東大本郷だけが 1.65ha 増加と大きな変動がありました。



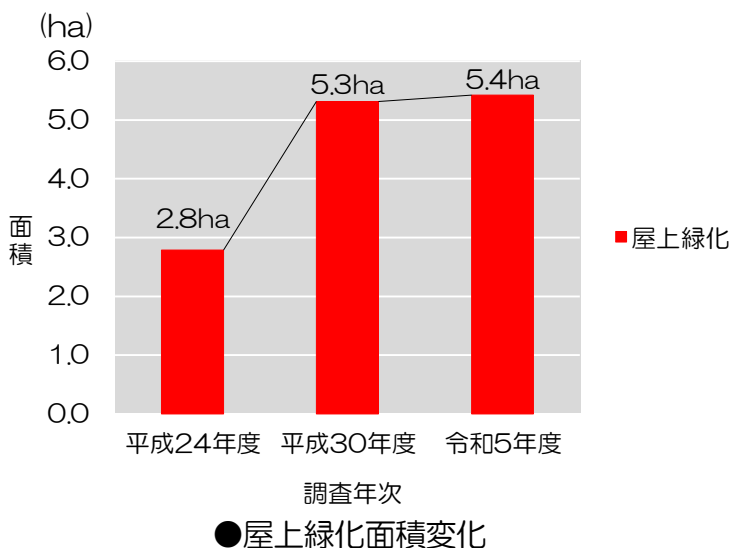
●区域別緑被地面積変化

屋上のみどり

1,722 箇所 総面積 5.4ha

区内の屋上緑化は、1,722 箇所、総面積は 5.4ha で、5 年前より 40 箇所、総面積では 0.1ha 増えました。

区全体面積に占める屋上緑化面積の割合は 0.5%と、まだ少ないですが、屋上緑化の普及が進むと重要な緑被地であるとともに、ヒートアイランド現象緩和などあらゆる効果の可能性がります。



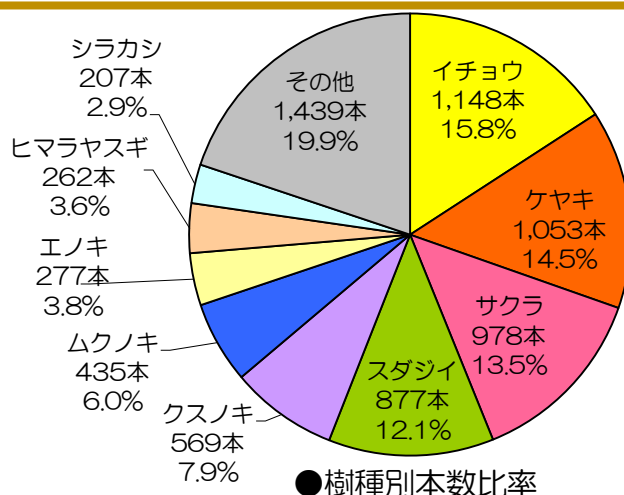
街の木々

樹木数は 7,245 本

区内の直径 50 cm以上の樹木数は、7,245 本あり、5 年前の調査からは横ばいとなりました。

樹木の約 8 割以上が公園緑地、学校用地、社寺用地、街路などにあり、緑の拠点となっています。そのほか、住宅地にも約 2 割の樹木があります。

樹種の内訳は、イチョウが最も多く、ケヤキ、サクラ、スダジイの 4 種で区内の半数以上を占めています。



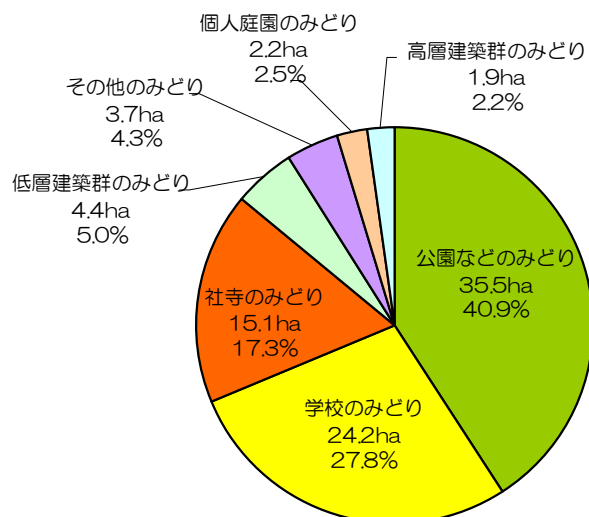
まとまりのあるみどり

樹林地面積は 87.0ha

区内の面積 300 m²以上のまとまりのある樹林地は、104 箇所、総面積は 87.0ha で、5 年前より 9 箇所減り、面積は 3ha 増えました。

小石川後樂園、六義園、小石川植物園、豊島岡墓地のほか、関口から目白台にかけての斜面地に区立肥後細川庭園などの規模の大きい樹林が存在し、23 区でも有数の樹林地帯を形成しています。

樹林地の約 7 割が公園と学校用地にあります。そのほか、社寺用地が約 17%と民有地の樹林として重要な位置を占めています。



●土地の種類別みた樹林地面積比率

目に映るみどり

緑視率は 14.3%

区内の約 200 箇所の交差点で調査した緑視率（人間の視野に占める緑の量の割合）は 14.3% でした。

緑視率が高かった区域は、西片、目白台、弥生などです。樹木の多い施設や、生垣などの緑が多くある区域では、目に映るみどりが多く緑視率も高くなります。

写真： 緑視率 51.8%



緑化についての問い合わせは ————— みどり公園課緑化係へ TEL.03-5803-1254